

お客様の安心は、 堅実な経営から。

時代に流されない安定した経営を心がけ、
安心してお取引いただける収益基盤の確立を図っています。

平成 23 年度の事業概況

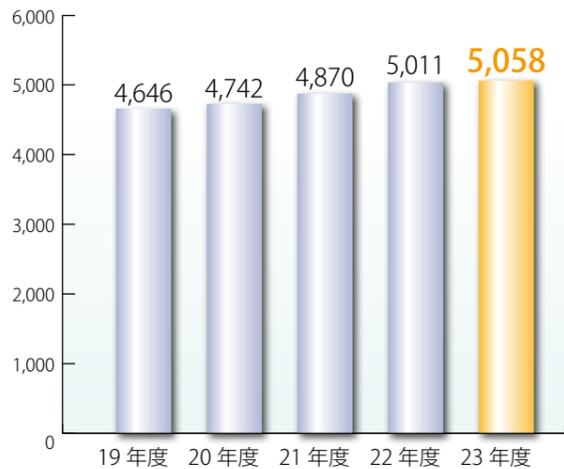
平成 23 年度は、預金量 5,000 億円の業容に相応しい質の充実をはかるために、将来を見据えた業務全般の見直しや職員のレベルアップに取り組みました。特に、「安定した収益確保等による経営基盤の充実」、「地域・顧客重視への取組強化」、「利便性・顧客満足度の向上と社会的責任の遂行」、「真に役立ち喜ばれる人材と組織づくり」等を重点施策として活動いたしました。



預金積金

ボーナス預金や年金定期預金など個人預金を中心に地道な預金募集活動の結果、預金残高は対前期末比 47 億円増加して、5,058 億円となりました。また、東日本大震災の復興を支援する「なかしん震災復興支援定期積金」を募集しましたところ、多くの皆さまから温かいご支援をいただきました。

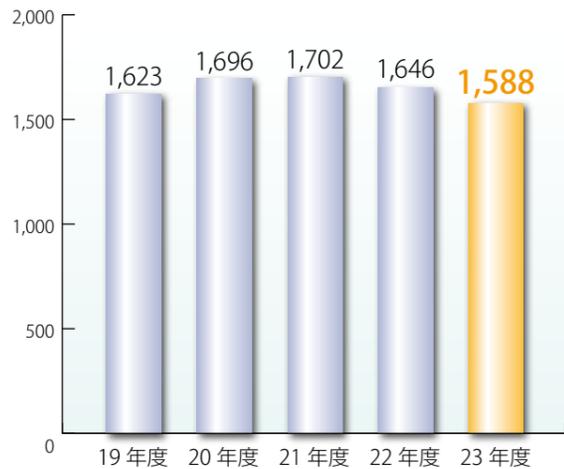
▶ 預金残高の推移 (単位：億円)



貸出金

お客様のニーズにお応えした融資商品を取り揃えて積極的に取組みましたが、景気低迷を反映して設備・運転資金とも資金需要に乏しく、融資残高は対前期末比 58 億円減少し、1,588 億円となりました。

▶ 貸出金残高の推移 (単位：億円)



損 益

貸出金残高の減少と利回りの低下による減収や、有価証券利息配当金の減少がありましたが、安定した余資運用と預金利息の減少、経費の節減により、960 百万円の当期純利益を計上することができました。

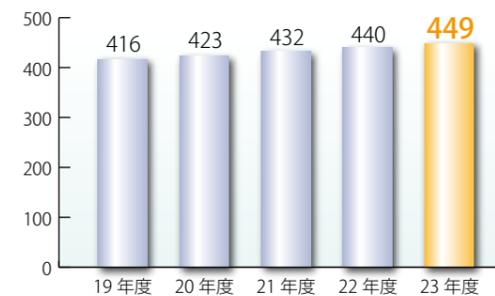
▶ 経常収益・当期純利益の推移 (単位：百万円)



自 己 資 本

当庫の健全性・安全性は引き続き高い水準を堅持しており、お客さまからの普通出資金や適正な内部留保等により自己資本比率は 20.81% となりました。今後も、堅実経営を基本として、一層強固な財務体質の構築を目指してまいります。

▶ 自己資本額の推移 (単位：億円)



▶ 自己資本比率の推移 (単位：%)



「基本項目」及び「補完的項目」から構成されています。平成 20 年度より、有価証券の評価差損にかかる特例措置に基づき計上しております。(詳しくは、自己資本の充実の状況等の項をご参照下さい。)

金融機関の健全性を示す重要な指標のひとつで、国内金融機関は 4% 以上が求められていますが、当庫は基準を大きく上回っており高い水準の健全性を維持しています。

主な経営指標の推移

		(単位：百万円 %)				
		平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
利 益	経常収益	9,897	9,738	9,615	9,509	9,329
	業務純益	1,925	1,897	2,196	2,457	2,638
	経常利益	1,182	953	1,346	1,257	1,695
	当期純利益	618	594	908	892	960
残 高	出資総額	1,169	1,174	1,176	1,175	1,177
	出資総口数 (千口)	2,339	2,348	2,352	2,351	2,354
	純資産額	41,142	39,980	44,439	45,930	48,164
	総資産額	513,104	521,908	539,253	554,442	559,673
	預金積金残高	464,689	474,264	487,088	501,175	505,848
	貸出金残高	162,310	169,620	170,285	164,611	158,823
	有価証券残高	243,696	263,821	312,181	295,620	300,877
単体自己資本比率		20.44	19.34	19.74	20.35	20.81
出資配当率		6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
出資 1 口当たりの配当金 (円)		30	30	30	30	30
職員数 (人)		388	384	388	388	384

(注) 総資産には債務保証見返勘定を含んでいます。